ガラス乾板から浮かび上がるあの時代
人生の事業を開拓として
地域産業を切り拓いた
辻村直四郎の軌跡 ～後編～

岩見沢の礎を築いた一人・辻村直四郎が遺した392枚ものガラス乾板（写真フィルムの前身）が、昨年12月に「岩見沢市指定文化財」に登録されました。これほどのガラス乾板が見つかったのは、全国でも珍しく、当時の暮らしや地域の歴史を伝える貴重な資料として注目を集めています。後編では、この写真をひもときながら、岩見沢の黎明に思いを馳せてみましょう。

ガラス乾板がもたらすもの

辻村直四郎は、入植から8年目の秋に開墾を成し遂げ、翌明治34年には「辻村農場」を開設しました。その後は、寺子屋を前身とする「志文小学校の設立や志文灌漑溝の創設に尽力するなど、地域の発展に力を注ぎます。さらに、当金庫の三代目組合長や岩見沢町議会議員などを歴任し、志文、そして岩見沢の発展に大きく貢献したことは、前編でご紹介した通りです。

岩見沢の開拓とまちの発展に尽力し続けた直四郎。その思いが込められた「ガラス乾板」は、100年以上の歳月を経て、驚くほど鮮明な姿のまま、私たちの前に姿を現しました。大きな災害にも遭わず、静かにこの時を待ち続けたガラス乾板は、「未来へ伝えて欲しい」という直四郎からのメッセージが宿っているかのようです。

▲今年5月から7月にかけて開催された、辻村家ガラス乾板写真の巡回パネル展

▲馬にまたがる辻村直四郎（明治40年代）

▲辻村農場でかんぴょう作り（昭和10年頃）

▲明治天皇御大葬（大正元年9月13日）自宅にて遥拝

子どもにカメラを向ける父親としての顔

明治30年代後半、まだ写真機材が非常に高価だった時代に、カメラを個人で所有し、撮影から現像、プリントまでを手がけていた直四郎。一体どのような思いでシャッターを切っていたのでしょう。

直四郎が遺した写真には、家族写真をはじめ、農場の灌漑工事や収穫の様子、水田、羊毛加工、旅行の風景、趣味のひとときなど、多彩な日常が収められています。そこには、その時代を生きた人々の表情や暮らしが、鮮やかに映し出され、ガラス乾板を用いた撮影は、昭和初期まで続けられました。

なかでも数多く残されている家族写真からは、子どもたちの成長を見守るまなざしや、家族との絆も伝わってきます。こうした写真は直四郎と妻・梅路の実家へ送られていました。おそらくは開拓の地で家族で元気にやっているという証を、写真で伝えたかったのだと想像できます。

家族写真の中でも、とりわけ印象的なのは、直四郎と子どもたちが揃っておじぎをしている1枚です。明治天皇の大葬に合わせて撮影されたものではないかと考えられています。また、梅路が病気で入院していた頃には、子どもたちを写した写真が多く遺されています。離れて暮らす妻へ子どもたちの元気な姿を届けたいという、優しい思いがあったのでしょう。

▲辻村家の家族写真（大正15年）

▲エルムの下で愛犬と遊ぶ梅路（大正14年）

未来へつなぐ記録写真

大正2年、「志文灌漑溝」の完成通水式を写した写真は、それまで文章のみ語り継がれてきた、岩見沢の稲作に欠かせない農業用水路の完成を目に見える歴史として私たちに伝えてくれます。

さらに大正11年には、収穫を間近に控えた水田と防風林を背景に、息子を立たせて撮影した一枚も遺されています。人物を配することで風景の広がりや稲の生育状況を記録した、直四郎ならではの工夫ではないかと考えられます。

このほかにも、志文の人々の農作業や日々の暮らし、さらには農業を学ぶためアメリカへ渡った頃の写真など、時代を映す貴重な記録の数々。厳しい時代をたくましく生き抜いた先人たちの姿に、未来への希望が伝わってくるかのようです。

時代のバトンを受け取った私たちは、どんな未来へと新しい時代をつなげていくのでしょう。写真はこれからもずっと、私たちを見守り続けます。

▲収穫を迎える辻村農場（大正11年）

ガラス乾板とは？

写真フィルムが普及する以前、明治時代から昭和30年代にかけて、広く使用されていました。厚さ1ミリの透明なガラス板に写真乳剤を塗布したものです。

岩見沢市34年ぶりの文化財指定

「辻村家ガラス乾板写真及び関連資料」
指定日：令和7年12月24日
概要：明治30年代後半から昭和10年代前半にかけて撮影されたガラス乾板写真と、ガラス乾板を入れていた紙箱等の関連資料。被写体は家族、農場、道内観光地等多岐にわたる。

そらちしんきん 個人向けローン
お申込みからご契約までWEBで完結 ご来店不要
お申込はこちらから
カーライフプラン
教育ローン
個人ローン
フリープラン
カードローン
詳しくは、空知信用金庫本支店窓口までお問い合わせまたはホームページをご覧ください。

※本誌では特に表記のない場合は、全て税込価格にて表記しています。
※店舗の営業時間やイベント等の開催については、変更となる可能性がございます。